

WEEKLY SIGNAL

平成30年12月7日(金) 1453号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想					
	12/10(月)	12/11(火)	12/12(水)	12/13(木)	12/14(金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券	△700	△2,000	△3,000	△3,000	△3,000
財政他	△15,900	+3,000	△2,000	+5,000	+56,000
資金需給	△16,600	+1,000	△5,000	+2,000	+53,000
主な要因	国庫短期証券 発行・償還(3M・6M)		源泉税揚げ 国債発行(30年)		年金定時払い 国債発行(5年)
オペ期日	共通担保(全) △2,600 CP等買入 △200 補充供給 +700				貸出増加支援 △31,300
オペスタート	共通担保(全) +3,100 ETF買入 +400				
(日本)	GDP(7-9月改定値)		機械受注(10月) 国内企業物価指数(11月)		企業短期経済観測調査(12月調査)
(海外)		米生産者物価指数(11月)	米CPI(11月) 欧ユーロ圏鉱工業生産(10月)	欧ECB金融政策会合・記者会見 欧EU首脳会議(ブリュッセル、14日まで) 米新規失業保険申請件数(8日終了週)	米小売売上高(11月、速報値) 米鉱工業生産(11月) 欧ユーロ圏製造業PMI(12月、速報値) 欧ユーロ圏サービス業・総合PMI (12月、速報値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.020 ~ 0.050
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.060
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初387兆円台から始まり、4日の法人税・保険揚げを主因に380兆円台まで減少した。その後も国債の発行等を受けて減少し、週末となる7日には378兆6,300億円となった。

無担保コールON物は、先週に引き続き調達ニーズが限定的であったため、週を通して軟調な地合となった。同加重平均金利は△0.070～△0.067%の狭いレンジで推移した。ターム物は1～2W物を中心に△0.045～△0.035%の水準で出合がみられた。

NY債券市場では長めの金利の低下が目立ち、3日には2年物国債の利回りが5年物国債の利回りを11年半ぶりに上回り、長短金利が逆転した。また、4日には長期金利の代表指標である10年物国債と2年物国債の利回り格差が2007年6月以来となる0.09%まで縮小した。

来週の主な予定は、国内ではGDP(7～9月改定値)(10日)、全国企業短期経済観測調査の公表(12月調査)(14日)、海外では英下院EU離脱案巡り採決(11日)、ECB金融政策会合・記者会見(13日)、EU首脳会議(13～14日)がある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.015 ~ 0.000
TDB 3M	△0.25 ~ △0.15
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約1兆500億円で、週間償還額(約5,800億円)から大幅に増加した。発行市場は、大型発行案件が重なり活況となった。11月末の発行残高は19兆7,992億円であったが、週初には2009年3月以来9年ぶりに20兆円を越え、週末の発行残高は20兆5,000億円程度となった。発行レートは、引き続きディーラーの購入ニーズが強く、マイナスから0%近辺のレンジであった。CP等買入オペが、4日に予定通り2,000億円オファーされた。結果は、按分落札レート△0.002%・平均落札レート0.001%と、前回比(按分落札△0.002%・平均落札0.002%)で按分レートは横ばい、平均レートは低下した。来週の償還総額は約1兆1,000億円となっている。事業法人の旺盛な資金調達ニーズにより、発行残高が今後どの程度積み上げられるか注目されところである。発行レートは、投資家、ディーラーの購入ニーズ強く、引き続きマイナス～0%近辺での出合いが中心と思われる。11日には、CP等買入オペが前回同様2,000億円程度オファーされる予定。

<TDB>

6日入札の6M800回債は、最高落札レート△0.1603%(前回債△0.1833%)、平均落札レート△0.1683%(同△0.1894%)となり前回債からマイナス幅を縮小。7日入札の3M801回債も最高落札レート△0.1675%(前回債△0.1712%)、平均落札レート△0.1753%(同△0.1991%)となり、前回対比利回りが上昇した。

入札後のセカンダリー市場では一定の需要が見られ、6M物は△0.175%程度、3M物は△0.195%程度と、入札水準より深いマイナス圏まで買い進まれた。

来週は14日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

銘柄先決めGC取引は週初△0.10%近辺から始まり、週央にかけて△0.095%～△0.10%で推移。短国6M、3Mの発行が重なった10日受渡しでは、前場△0.09%～△0.095%の出合い。後場は△0.08%台までレートが上昇した。SC取引では、10年351回債と352回債のbidが多く、351回債は週を通して概ね△0.10%台半ば。352回債は、入札日前日に△0.10%台半ば～後半で多く取引された。他2年392・393・394・395回債、5年135・136・137回債、10年336・337・338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350回債、20年164・165・166回債、30年59・60回債、40年10・11回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。